

二〇二五年二月一日(参加者二名)

広芝へ黄落やまぬ大樹かな

わかば

嵩なしてせせらぎを塞く落葉かな

宏 虎

せせらぎを覆ひ彩なす紅葉かな

わかば

温室の屋根に嵩なす落葉かな

こすもす

綿虫の着床したる水際かな

わかば

山荘の蒼天焦がす照紅葉ん

ぼんこ

山荘へなだるごとく山紅葉

わかば

ブローアの風に従う落葉かな

明日香

蘭亭の飛簷掠めて紅葉散る

わかば

木洩れ日の斑を敷く径に石踏黄なり

ひかり

冬木立羊歯群落を褥とす

わかば

定例会の選

那智黒の玉石るとしぐれけり

菜々

二〇二五年二月一日(参加者二名)

大岩を砦としたる冬の池

菜々

鈍色の空へ溶けさふ冬桜

菜々

曇天に斯く清楚なる冬桜

満天

山荘へ誘ふ石路の小径かな

満天

十字塚風化の面に冬日差

小袖

登りきし展望台は薄原

小袖

お茶室の耳門に一步冬紅葉

よし子

ちんまりと肩寄す地蔵草紅葉

よし子